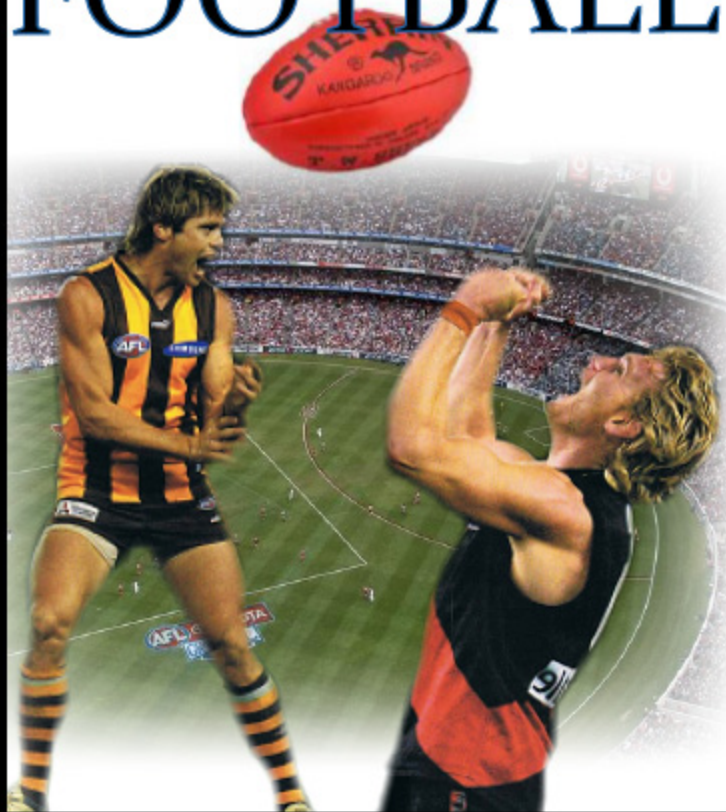


—THE GREAT AUSTRALIAN GAME—

# AUTRALIAN FOOTBALL



## 目次

3-9

### **THE GAME**

**HISTORY**

**MAKING UP A TEAM**

**HOW THE GAME IS PLAYED**

**THE PLAYING AREA**

**THE GEAR/THE FOOTBALL**

**ATTENDANCES**

**UMPIRES/THE FREE KICK**

10-12

### **SKILLS**

**THE KICK**

**THE MARK**

**THE HANDPASS**

13-19

### **POSITIONS**

**THE FULL-FORWARD**

**THE FULL-BACK**

**RUCK**

**THE MIDFIELDER**

**CENTRE HALF-FORWARD**

**CENTRE HALF-BACK**

**HALF-BACK FLANK**

**HALF-FORWARD FLANK**

**FORWARD POCKETS**

**THE COACH**

20-26

### **CLUBS**

**ADELAIDE-THE CROWS**

**BRISBANE-THE LIONS**

**CARLTON-THE BLUES**

**COLLINGWOOD-THE MAGPIES**

**ESSENDON-THE BOMBERS**

**FREMANTLE-THE DOCKERS**

**GEELONG-THE CATS**

**HAWTHORN-THE HAWKS**

**KANGAROOS**

**MELBOURNE-THE DEMONS**

**PORT ADELAIDE-THE POWER**

**RICHMOND-THE TIGERS**

**ST. KILDA-THE SAINTS**

**SYDNEY-THE SWANS**

**WEST COAST-THE EAGLES**

**WESTERN BULLDOGS**

28-31

### **WINNERS**

**ALL-AUSTRALIAN TEAM 2007**

**BROWNLOW MEDALLISTS**

**THE COLEMAN MEDAL**

**THE NORM SMITH MEDAL**

**AFL PREMIERSHIP CHAMPIONS**

## HISTORY: ヒストリー

オーストラリアンフットボールの創始者であるトム・ウィルスは、学生時代にイングランドのラグビースクールに通いそこでクリケットとラグビーに影響を受けた。その後オーストラリアに帰国した彼は、クリケット選手がオフシーズンである冬の間に体力を養うためのトレーニングとしてフットボールを提案する。

オーストラリアンフットボールのルールはウィルスと彼の同僚たちによって考案された。1858年7月10日にメルボルンフットボールクラブが創設され、その年行われたスコットランド大学対メルボルングラマースクールの試合が、オーストラリアンフットボールクラブの最初の公式記録として残っている。

オーストラリアンフットボールは速く間に発展を遂げた。1859年にジーロングフットボールクラブ設立、1866年にはルールが改定され定期戦も開催されるようになる。

1896年、ビクトリアンフットボールリーグ(VFL)が設立され、その翌年の1897年、設立当初のクラブ(カールトン、コーリンウッド、エッセンドン、フィッツロイ、ジーロング、メルボルン、セントキルダ、サウスメルボルン)の間でリーグ戦が行われた。

1908年にはリッチモンドと大学チームがリーグに加わるが、1914年のシーズン以降は大学チームを除く9チームでリーグが行われる。その後1925年にフットクレイ(現在のウェスタン・ブルドッグス)、ホーソン、ノースメルボルン(現在のカンガルーズ)がVFLに加わった。

1982年、サウスメルボルンフットボールクラブは本拠地をシドニークリケットグラウンドに移し、名前をシドニースワズへと変えた。さらに1987年にはウェストコースト・イーグルス、ブリスベン・ベアーズが加わり、14チームが参加するリーグへと拡大した。1990年にVFLはAFL(Australian Football League)へと名称を変える。その後アデレード(1991年)、フリマントル(1995年)、ポートアデレード(1997年)を加え、リーグ設立当初からのチームであったフィッツロイが1996年のシーズンを最後にブリスベン・ベアーズと合併しブリスベン・ライオンズとなったことで、現在の16チームの構成となった。

オーストラリアで最も人気があり多くの人が熱狂するこのスポーツは、ビクトリア州を中心に全ての州・準州でプレーされメディアの注目を一身に集めている。オーストラリアンフットボールはもはや国の文化の一部として人々を魅了してやまない。

AFLはかつて、オーストラリア最大の10万人観客収容を誇るメルボルンクリケットグラウンド(MCG)で活動していたが、2000年11月に新しく経営の拠点をテルストラドームへと移した。現在MCGでは、その年の優勝を決めるグランドファイナルなどの大きな試合が行われている。またAFLの他にも各州が独自の組織を持ち、それぞれのリーグを運営している。地方にも多くのリーグが存在し、毎年約40万人のプレーヤーが登録しプレーしている。

## MAKING UP A TEAM: チーム構成

オーストラリアンフットボールの特徴は誰にでもプレーできることである。特にAuskick(ジュニア世代のフットボール)レベルではたくさんの女性プレーヤーがフットボールを楽しんでいる。

トップレベルで活躍しているプレーヤーの体格は身長が163cm~215cm、体重が70kg~115kg程と幅広い。また、チームを構成する上で背の高いプレーヤーと背の低いプレーヤーのバランス

を整えることはとても大切である。

背の高いプレーヤーは高いボールを競り合うのに重要な役割を果たし、背の低いプレーヤーはグラウンドに転がるボールやルーズボール(誰も確保していないボール)の競り合いに強い。また、すべてのプレーヤーにとってスピードは非常に重要であり、加えてスタミナとパワーも必要とされる。



近年では背が高く技術の優れたプレーヤーが特に求められている。そのようなプレーヤーはチームの中心となり、勝利に大きく貢献する。近年のAFLで理想とされるプレーヤーは身長が185cmを超え、パワーがあり、一試合を通して走り続けることができるスタミナとスピードを併せ持つプレーヤーである。

AFLでは1チーム18人でプレーし、4人がインターチェンジ(交代要員)としてベンチに入ることができる。急な欠員を補うためのエマージェンシープレーヤーは3人まで登録でき、試合直前まで入れ替えることができる。またチームは38人のプレーヤーをチームリストに載せ、シーズンの初めには6人のルーキーを加えることができる。

## HOW THE GAME IS PLAYED: ゲームの流れ

AFLの試合は1チーム18人でプレーし、4人がベンチ入りできる。1試合20分クォーターで行われ、ロスタイムはフィールドアンパイア(主審)からタイムキーパーに伝えられる。ゴールの後や、ボールがバウンダリーラインの外に出ている時間などがロスタイムの対象となる。ロスタイムを加えると1クォーターは25分から30分にもなる。

選手交代は試合中いつでも行うことができ、コーチの指示は2人のランナーを通じてプレーヤーに伝えられる。コーチは試合中、グラウンド全体を見渡せる位置にあるコーチングボックスから支持を出す。クォータータイムにはグラウンドへ下り集まったプレーヤーたちに指示を与え、ハーフタイムにはプレーヤーと共にロッカーに引き上げる。

試合は3人のフィールドアンパイア(主審)、2人のバウンダリーアンパイア(線審)、2人のゴールアンパイアの計7人で進行される。

試合はフィールドアンパイアがグラウンド中央でボールを高くバウンドさせることで開始される。クォーター開始時とゴールが入った後も同様にして試合が再開される。

クォーターごとにグラウンド内のチームのエンドが変わり、第4(最終)クォーターが終了した時点で得点の高いチームが勝ちとなる。

ゴールは6点、ビハインドは1点が加算される。攻撃側のチームがボールを誰にも触れられることなくゴールポストの間に蹴りこめばゴールとなる。ゴールポストとビハインドポストの間をボールが通る、ゴールポストに当たる、もしくはゴールラインを通る前に誰かに触れたらビハインドとなる。

AFLのリーグ戦は勝ち点で争われる。勝ち点は4点、引き分けは2点、が加算され、負けは0点となる。試合毎に勝ち点と得点率(得点÷失点×100)によって順位が決められ、ホーム・アンド・アウェイで行われるリーグ戦の上位8チームが3週間に及ぶファイナルシリーズを戦う。そこで勝ち残った2チームがグランドファイナルを戦い、勝ったチームがその年のプレミアシップチャンピオンとなる。



## THE PLAYING AREA: プレイングエリア

他のフットボールとは違い、オーストラリアンフットボールは楕円形のグラウンドで行われる。グラウンドの大きさは決められていないが、推奨される大きさは縦150～185m、横130～150mであり、理想的な大きさは縦165m、横150mとなっている。



グラウンドの両端にはポストが4本ずつ立っており、外側の2本をビハインドポスト、内側の2本をゴールポストと呼ぶ。ビハインドポストはゴールポストよりも短くなっていて、各ポストの間隔はすべて6.4mである。

楕円形のグラウンドの周りに引かれたバウンダリーラインがインフィールドとアウトフィールドを区別している。それぞれのクォーターとゴールの後は直径3mのセンターサークルからアンパイアのバウンスによってプレーが再開される。

また、50m四方のセンタースクエアがセンターサークルを囲んでおり、ボールがバウンスされる前は両チームそれぞれ4人のプレーヤーのみがスクエアに入ることが許される。試合再開時にセンタースクエアに4人以上入ってしまったチームは反則となり、相手チームにフリーキックが与えられる。

ビハインドに入るとディフェンダーのキックインによってプレーが再開される。キックインをするディフェンダーは、ゴール前にある9m × 6.4mのスクエアの中からキックしなければならない。



## THE GEAR: ギアー

AFLではその試合の激しさにもかかわらず、プレーヤーが使用する防具は一般的にマウスガードや足首などへのテーピングのみである。ラックマンはすね当てか腿パッドをつけることがあり、中には専門医からの勧めでヘッドギアをつけるプレーヤーもいる。また、ボールをマークしやすくするためにグローブをつけるプレーヤーもいる。特にボールが濡れて滑りやすいときにグローブは有効である。

さらにAFLプレーヤーはコンディションやポジションによってスパイクを使い分ける。長い時間走る中盤のプレーヤーの多くは、一般のサッカースパイクよりもランニングシューズに似た固定式のスパイクを履く。グラウンドがぬかるんでいる場合には、滑るのを防ぐために長いポイントの取替え式スパイクを使用



## THE FOOTBALL: フットボール

オーストラリアンフットボールのボールは皮製で楕円形をしている。標準の大きさは縦約725mm、横約550mm、重さ約500g。ラグビーボールより一回り小さくアメリカンフットボールより一回り大きいサイズとなっている。



## ATTENDANCES: 観客

AFL はオーストラリアのどのスポーツよりも遥かに多くの観客を集め、彼らを魅了している。多くの試合は満員になり、毎週5万人以上の観客がAFLの試合に訪れる。オーストラリアでは約45万人がAFLクラブメンバーであり、メンバーの数は年々増加してきている。

AFL のファンはひいきのチームを熱狂的に応援することで知られている。多くのサポーターは毎週欠かさずに応援するチームの試合を観戦し、人気の高いファイナルシーズンのチケットはすぐに売り切れてしまう。ほとんどのオーストラリア人は自分の応援するチームを持っており(もしくは家族のサポートするチームを代々応援し)、彼らの生活の一部として応援することを楽しむ。試合には老若男女問わずいろいろな人が訪れる。





## UMPIRES: アンパイア

全てのスポーツにアンパイアは必要不可欠である。AFLでは試合をコントロールするために3人のフィールドアンパイアが必要であり、同様に2人のバウンダリーアンパイアと2人のゴールアンパイアがいる。

フィールドアンパイアの役割はプレーヤーが公平にボールを奪い合い、アンフェアな妨害なしにプレーできるようにすることである。初めは1人のフィールドアンパイアで試合を行っていたが、試合のペースが上がるにつれて1人ではそのペースを維持することや、重大な場面での判定が難しくなった。そのため1976年にAFLは2人のフィールドアンパイアを採用するシステムに移行し、さらに1993年には3人目のフィールドアンパイアが加えられた。3人のアンパイアはそれぞれ担当するエリアがあり、お互いにコミュニケーションを取り合って試合を進める。

フィールドアンパイアは笛を吹いてマークやフリーキックを指示し、声や手の動きでその判定の理由をプレーヤーに伝える。フィールドアンパイアのみがプレーヤーに対してフリーキックを与えることができるが、全てのアンパイアが試合中に起きた悪質な行為を記録する権限を持っている。悪質な行為が起きた場合はその記録をもとに後日AFLで開かれる委員会によってプレーヤーの処分が決定される。

バウンダリーアンパイアも笛を持ち、バウンダリーラインの外にボールが出たときに合図する。その後バウンダリーアンパイアによってグラウンドにボールが投げ入れられ、試合が再開される。

ゴールアンパイアは得点したときに合図を出し、得点を記録する前にゴールを知らせる旗(ゴール時は2本、ビハインド時は1本)を振る。ゴールアンパイアの記録は試合の公式記録となる。

## THE FREE KICK: フリーキック

フリーキックはプレーヤーが反則を受けたときなどに与えられる。フィールドアンパイアは反則を犯したプレーヤーを見たときに、笛を吹いてフリーキックを与えることを伝える。反則を受けたプレーヤーがフリーキックをせずに、プレーが進行されることがある。これはアドバンテージルールと呼ばれる。

フリーキックは多くの理由によって与えられる。(別紙ルールブックを参照)プレーヤーがボールをキックしたあとに不正なチャージを受けた場合は、キックされたボールが地面に触れた地点から一番近くにいて味方にフリーキックが与えられる。

フリーキックを与えられたプレーヤーがさらに相手から妨害を受けた場合は、そこからゴールに向かって50m前進した地点からのフリーキックとなる。これは大きなゴールチャンスとすることができる。

## THE KICK: キック

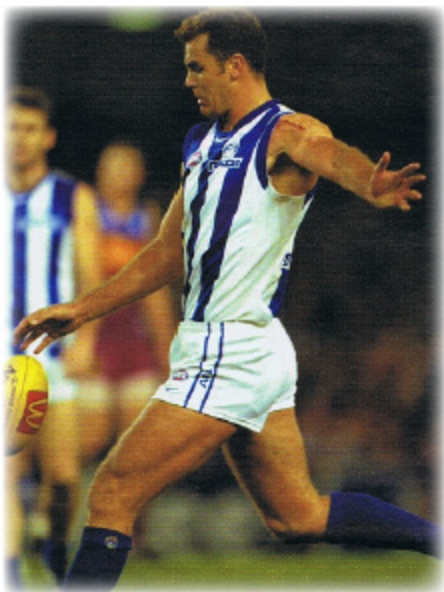
AFL の試合はキックを中心に展開され、キックからのみゴールが生まれる。最も一般的なキックはドロップバントと呼ばれ、多くのプレーヤーがパスをするときやゴールを狙うときに使う。ボールを片手で足元に落とし、足の甲をボールの底に近い部分に当てる。このように蹴ることでボールにバックスピンを与えることができる。このキックはスピードと正確性が高いことから、現在最もよく使われているキックである。

ボールをグラウンドにバウンドさせてから蹴るドロップキックは、蹴るまでに時間がかかり、ミスをする確率が高いために試合中はあまり見られなくなった。

スクリュウキック(torpedo punt)は、ボールを遠くに蹴るときに使われる。片方の手でボールの下半分を持ち、もう片方の手をボールの上半分に添える。15度くらいの角度でボールを足元に落とし蹴り上げると、スクリュウ回転で飛んでいく。

他にもフラットバントと呼ばれるキックがあるが、距離が出ず、正確性に欠け、味方がマークしづらいためほとんど使われない。

多くの AFL プレーヤーはキックの技術に優れ、左右どちらの足でも正確に蹴ることができる。AFL では一般的に50mから60mの距離のキックを蹴ることが要求される。



## THE MARK: マーク

AFL の試合の一番の見所は、腕を伸ばし誰よりも高いところでボールをキャッチするハイマークである。15m以上離れたプレーヤーからのキックを直接キャッチするとマークが成立する。(2001年シーズンまでは10m以上がマークと認められていた。)

プレーヤーはボールをキャッチした後それを落とすとしても、アンパイアにキャッチが有効と認められればマーク成立となる。

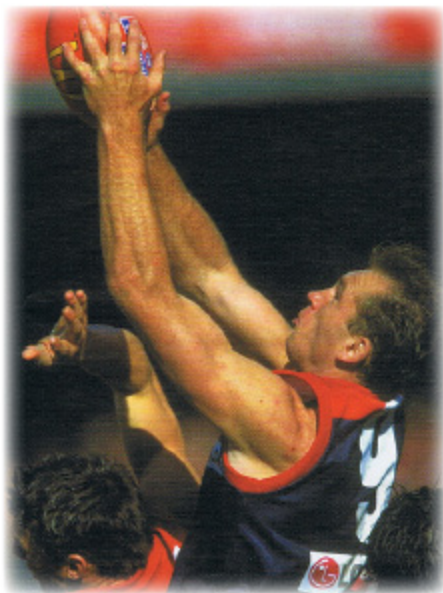
マークが認められたプレーヤーはプレーオンかフリーキックを選択できる。

相手プレーヤーの上に乗り、高くジャンプしてボールをマークするプレーは思わず息をのむ瞬間である。

マークにはハイマーク以外にも、胸でキャッチするチェストマークや、滑り込んでボールを取るダイビングマークなどもある。

マークの競り合いに強いプレーヤーは AFL では特に必要とされ、主にフルフォワードやセンターに配置される。

相手のプレッシャーを受ける競り合いの中でのマークは非常に難しいプレーであるが、実際の試合中は競り合わずにマークを取る場面の方が多く見られる。AFL プレーヤーは、相手のいないスペースを探しそこに走り込むことで相手のプレッシャーを受けることなくマークを取ることができ、それが AFL のスピーディーな試合展開を生み出している。



## THE HANDPASS: ハンドパス

ハンドパスは AFL の試合の大きな特徴である。プレーヤーはハンドパスをするとき、片方の手でボールを持ち、握りこぶしを作ったもう片方の手でボールを弾く。その時、ボールを開いた手で弾いたり、弾く前にボールを投げたりしてはいけない。ボールを投げってしまうと反則となり、そのようにハンドパスが正しく行わなければ一番近くにいる相手プレーヤーにフリーキックが与えられる。

現在の AFL でハンドパスは他のどのプレーよりも目立つものとなった。かつての AFL の監督は、ディフェンスでハンドパスをするプレーヤーを認めず、プレーヤーはタックルやプレッシャーを受けたときにだけハンドパスを使っていた。しかし、今ではハンドパスは非常に有効なプレーとされ、オフense、ディフェンスを問わずどの場面でも多く使われるようになった。これは近年の AFL の試合に実際に見られる現象のひとつである。

今や素早いハンドパスは攻撃の大きな武器となっている。AFL のチームは試合中のキックとハンドパスのバランスに気をつけており、チームメイトをフリーにさせるようなハンドパスを有効に使うチームが増えてきている。





## POSITIONS GUIDE

*'When the ball is in dispute, I always think about where my opponent is. And if we have the ball, that's when you look to work off your opponent.'*

- Fremantle (and former Port Adelaide) midfielder Josh



## THE FULL-FORWARD:フルフォワード

オーストラリアンフットボールには様々なタイプのプレーヤーがいる。その中でもフルフォワードはグラウンド上で唯一のポジションであり、大きな注目を浴びるポジションである。彼らはしつこく付きまとうフルバックと競り合い、素晴らしいマークを取り、プレッシャーの中でも正確にゴールを決めることができる。

フルフォワードのプレーヤーの中には多くのスーパースターがいる。彼らのプレーは主にゴールの数で評価され、歴史に名を残しているフルフォワードは平均して1試合4ゴール以上を決めている。

エッセンドンのスーパースターであるマシュー・ロイドは、過去3度にわたってAFLの得点王に与えられるCOLEMAN MEDALを獲得した。彼のプレーは、エッセンドンのサポーターに50年前の偉大なフルフォワード、ジョン・コールマンの活躍する姿を思い起こさせた。ロイドの貢献はゴールだけでなく、味方がボールを前線に集めるのを助けるターゲットとしての役割もあり、彼の功績はゴールの数だけでは計れない。

## THE FULL-BACK:フルバック

フルバックはチームの最終ラインを守るプレーヤーである。彼らは相手となるフルフォワードの側に立ち、絶えずプレッシャーをかけ、相手に休む間を与えない。そしてフルフォワードの近くにボールが来たときにはそれを弾いてクリアする。フルフォワードに仕事をさせない事が彼らの仕事である。

フルバックはその大きな体格に反して素早く動き、力強い。彼らはチームから絶対の信頼を得ており、ピンチのときにも冷静である。また、彼らは恐れを知らず身を挺してチームの勝利に貢献する。

めったに見られないが、フルバックが自陣ゴール前から攻め上がりゴールを決めるシーンはとても盛り上がる。エッセンドンのダスティン・フレッチャーはこのプレーが得意なAFL屈指のフルバックである。

TWO OF THE BEST: Carlton's Stephen Silvagni (left) staged several memorable deals with Geelong champion Gary Ablett during the 1980s and 1990s.



## RUCK:ラック

ラックというポジションのスタイルは年々進化し、その必要性は高まってきている。最近現れた新しいスタイルである「モバイルラックマン」とは、背が高く、ジャンプ力に優れ、よく走り、攻撃に参加して得点を決める能力も備えているラックマンのことである。

典型的なラックマンの役割は、味方のキックのターゲットとなり、確実にマークして、フォローに来たプレーヤーにハンドパスをすることである。

またラックマンは、センターバウンスやボールアップ、スローインで競り合い、チームメイトに直接パスをしたり、前へボールを弾いたりする役割もある。

ラックマンがそれらの技術を習得し、AFLで最高のパフォーマンスを見せるまでには数年かかると言われている。

## RUCKWORK:ラックワーク

AFLの試合においてラックマンの役割はとても重要である。試合中のマークやその体格で目立つラックマンだが、彼らにはラックワークという重要な仕事がある。

ラックワークは、試合中の※センターバウンスや※スローイン、※ボールアップの際に行われる。

卓越したラックマンは、ラックワークのときチームメイトに直接ボールをパスすることができる。相手よりも優位に立って先にボールを取れるように、全てのチームはラックワークについての戦略を考える。

また最近では、背の高いプレーヤーをフォワードラインに増やすためにラックマンが前に攻め上がる機会が増え、ラックマンは攻撃的なポジションとなってきている。

※センターバウンス: 各クォーターの初めや、ゴールが決まった後に行う

※スローイン: ボールがバウンダリーラインの外に出た後に行う

※ボールアップ: プレーヤーがボールに密集し、ボールがそこから出せなくなったときに行う

## THE MIDFIELDER:ミッドフィールダー

センター、ウイング、ローパー、ラックローパーを総称してミッドフィールダーと呼ぶ。

チームは8人程度のプレーヤーでミッドフィールダーを構成し、それをローテーションさせて1試合を通して高い集中力と走力を維持する戦術を取る。

ミッドフィールダーには高い持久力、卓越した技術、スピード、センスが必要であり、それに加えて密集でのボールの競り合いに強いことが要求される。

また、中盤でボールを支配できるかどうかがチームの勝敗を大きく左右する。



AFLでは、ハンドやキックなどひとつひとつのプレーの記録(スタッツ)をとることで、中盤でのボール支配率を算出する。支配率が相手を上回っていれば、それは相手よりも多く、高い成功率でフォワードにボールを運んだことになり、ミッドフィールダーが十分に機能していることを意味する。

また、ディフェンスラインの深い位置まで戻り、相手のフォワードラインに自由にプレーするスペースを与えないという仕事もミッドフィールダーの重要な仕事のひとつである。

TOTAL PACKAGE: Warren Tredrea  
his game on changing  
centre half-forward Wayne CareyCENTRE HALF-FORWARD  
センターハーフフォワード

オーストラリアンフットボールにはこのような言葉がある。

「いいセンターハーフフォワードがいなければ、そのチームは優勝できない。」

センターハーフフォワードは一般的に最も難しいポジションだとされている。

センターサークルからホットスポット(ゴールから30m~40mのエリア)の間での競り合いではレベルの高いプレーが要求される。

センターハーフフォワードにはプレーヤーによって様々なスタイルがある。ブリスベンのスーパースター ジョナサン・ブラウンは、競り合いの中でマークをとる能力が高いことで有名である。彼の高い能力は敵の注意を引き、チームメイトにボールを取らせるチャンスも与える。彼はまた、ゴールに近いフルフォワードエリアでも多くのマークを取っている。

ジョナサン・ブラウンは2001、2002、2003年のブリスベン3連覇時のメンバーであり、多種多様のスキルとすばらしい攻撃力をもっている。彼は体格が優れている上によく動き、ボールの競り合いでの彼の激しいプレーを止めるのはディフェンダーにとってとても困難である。

## CENTRE HALF-BACK:センターハーフバック

センターハーフバックの役割は第一にディフェンスであり、ゲームをコントロールする役割も担っている。

センターハーフバックは相手の優れたセンターハーフフォワードを押さえ込み、ディフェンスラインからボールをクリアしなくてはならない。

彼らはスピードがあり、マークを取ることや相手のマークを阻止することがうまく、相手を恐れず、パワーのあるプレーヤーである。

## HALF-BACK FLANK: ハーフバックフランク

ハーフバックフランクは、以前は堅実で指示を確実にこなすタイプのプレーヤーが多かったが、今では相手をしっかりディフェンスすることはもちろん、積極的にボールを持って走るプレーヤーが増えてきた。ハーフバックフランクは状況を見ながら相手の隙についてカウンターアタックを仕掛けることもあり、スピードとキックの技術が要求される。

チームがハーフバック付近でターンオーバーしたときに、彼らはマークを振りきり、ボールの動きを予想しながら攻め上がる。



## HALF-FORWARD FLANK / FORWARD POCKETS ハーフフォワードフランク / フォワードポケット

これらのポジションにはそれほどサイズの大きくないプレーヤーが多く、彼らは動き回ってプレーするのが得意である。多くのチームはセンターハーフフォワードやフルフォワードがマークを競り合うときにフォローにいけるようなタイプのプレーヤーを好む。

ブリスベンのルーク・パワーやフリマントルのジェフ・ファーマーといったプレーヤーはこのタイプに当てはまる。

その他にも動き回れて、頭がよく、マークをよく取り、正確なキックができるタイプのハーフフォワードがいる。ウェスタンブルドックスのブラッド・ジョンソンやシドニーのマイケル・オローリンは、よく走り、どんな状態からでもゴールを決めることができる強いプレーヤーである。

相手チームにとってこのようなプレーヤーは、ゴール付近では特に危険であり、彼らを押さえ込むのは困難である。ハーフフォワードやフォワードポケットは、限られたチャンスを最大限に生かすことが要求される。

## THE COACH:コーチ

監督の役割はこの10年で様変わりした。トレーニングやプレーの全ての面をコントロールしてきた監督だったが、今では各部門のエキスパートに仕事分担され、監督はそれらをまとめるヘッドコーチとしての役割を担っている。

チームにはアシスタントコーチ、ランニングコーチ、コンディショニングコーチ、リハビリテーションコーチ、セットプレーコーチ、メンタルトレーナーなどのスタッフがいて、最新のテクノロジーを駆使したプログラムを行っている。

しかし、どんなチームでもすべてを統括するのはヘッドコーチである。ヘッドコーチは各コーチ、トレーナーの助言を受けた後にプレーのスタイルを決め、試合の最終的な準備や試合中の指示を行う。

ヘッドコーチは試合前や試合中にプレーヤーに指示を与える。試合の最中にプレーヤーに指示を出したいときは、チームのランナーを通してそれを行う。ランナーは試合が続行しているときにもグラウンドに自由に入れるので、監督の指示を直接プレーヤーに伝えることができる。







## Adelaide the Crows

### アデレード・クロウズ



アデレードは1991年にAFLに加わり急速な発展を遂げた。1997、1998年のプレミアシップ、アデレードはコーチ マルコ・ブライトのもと、1990年代のフットボール界における偉業を達成する。アデレードは2つの年のファイナルシリーズで4つの勝利を収め、チャンピオンシップ2連覇を果たした。アデレードはホームであるAAMIスタジアムで、その熱狂的なファンを魅了している。2000年、前年のシーズン中に退任を表明していたマルコ・ブライトから、元ジーロングのコーチであり、ホーソンのスーパースターであったゲリー・エアーズがコーチを引き継いだ。クロウズはその年11位でシーズンを終えるが、翌2001年、シーズン後半に猛烈な追い上げを見せ3位まで上り詰める。その後クロウズは2003年にファイナルシリーズ出場。2004年シーズン途中でコーチを引き継いだコーチ ニール・クレイグのもと、2005、2006、2007年にもファイナル出場を果たす。



## Brisbane the Lions

### ブリスベン・ライオンズ



ブリスベン・ライオンズは1996年、ブリスベン・ベアーズとフィッツロイの合併により創設されたクラブである。「the Gabba」と呼ばれるクリケットグラウンドをホームグラウンドとし、ジャンパーはフィッツロイのえび茶、青、金を基調としている。ブリスベン・ライオンズは、1999年からクラブの指揮を執るレイ・マッシューズのもと、2001年に初めてプレミアシップを制覇する。それまでのブリスベンは、1998年にシーズン最下位。レイ・マッシューズ就任1年目の1999年には、ファイナル予選でその年のプレミアシップ覇者カンガーズに敗退し、2000年には5位でシーズンを終えている。しかしその後、2001年ブラウンロウメダリスト ジェイソン・アカメネス、2002年にブラウンロウメダリスト、2003年にノーム・スミスメダリストを獲得したサイモン・ブラック、2001年ノーム・スミスメダリスト ショーン・ハート、1996年ブラウンロウメダリストのキャプテン マイケル・ボスを擁し、2001～2003年のプレミアシップ3連覇を成し遂げた。



## Carlton the Blues

### カールトン・ブルース



リーグへの参加は1897年。カールトンはVFL/AFL通算16回のプレミアシップ制覇という栄誉を、長年のライバルであるエッセンドンと分け合っている。そして、リーグで最もサポートされているクラブのひとつでもある。ブルースはコーチ デビッド・パーキンのもと、1999年グランドファイナル連出、2000年3位という成績を収める。2001年には新しいコーチ ウェイン・ブリテン、AFL最年長プレーヤーのキャプテン クレイグ・ブラッドリーに率いられ、カールトンは再度グランドファイナリストとなる。クラブが最近優勝したのは1995年、シーズン23勝という驚異の記録を残した年である。以前クラブは1970年のグランドファイナルにおいて、ハーフタイム時点での44点差を逆転しコーリンウッドを破るという驚くべき、121、696人という記録的な観衆の前でやってのけたこともある。2003年からはヘッドコーチにデニス・バガンが就任。2005年に彼らのホームグラウンドであったオプタスオーバルでの最後の試合を行った。現在ホームゲームはMCGとメルボルンで行われている。またクラブは、2005年と2007年にプレシーズンカップでの優勝を収めている。しかし、2007年シーズンを最後にデニス・バガンがコーチを退任。後任にはケビン・ラッテンが就き、現在クラブの指揮を執っている。





## Collingwood the Magpies

### コーリンウッド・マグパイズ



コーリンウッドの、「AFLで最もアンラッキーなクラブ」という評判は1958年から1990年の33年間の不遇の時代から付けられた。コーリンウッドはその33年の間に9回もグランドファイナルに進出しているにもかかわらず、8回の敗戦と1回のドロローを数え、全てのチャンスを逃している。しかし1990年、ついにそのジンクスは破られる。コーリンウッドはその年のグランドファイナルでエッセendonを下しプレミアシップチャンピオンとなった。2000年、ウェストコースト・イーグルスを2回のプレミアシップ制覇に導いたコーチ ミック・モルトハウスがコーリンウッドのコーチに就任する。その年コーリンウッドはシーズン15位に終わるが、2001年にはあと一歩でファイナルシリーズ出場というところまでチームを立て直した。

コーリンウッドは現在まで14回プレミアシップを制覇しているが、そのうちの11回は1897～1936年の39年の間に数えられたものであり、その内の1927～1930年の4連覇は現在もAFLのレコードとして残っている。またコーリンウッドは、AFLで最も気性の荒いサポーターを持つクラブとしても知られている。1999年を最後にホームグラウンドをビクトリアパークから現在のMCGへと移し、MCGとメルボルンスタジアムの両方でホームゲームが行われている。コーリンウッドは2002年、2003年にグランドファイナル出場を果たしているが、そのときは2度ともプリズベン・ライオンズに敗れている。



## Essendon the Bombers

### エッセendon・ボマーズ



エッセendonは1897年に行われたリーグ最初のプレミアシップ優勝クラブであり、現在のAFLの核とも言えるクラブである。このクラブの近年に見られる発展は、1981年以来そのポジションを守り続けてきたコーチ ケビン・シーディーによるところが小さくはないだろう。エッセendonは1996年、1999年にコーチ ケビン・シーディーのもとグランドファイナルにまで勝ち進みながら、両試合とも1ポイント差でチャンピオンフラッグ逃している。そして2000年、エッセendonはプレミアシップ、アンセットカップ(リザーブスのリーグ)の両方で優勝し、このシーズン中にいくつもの記録を塗り替えた。

- ・シーズン最多勝利記録(25試合中24勝)
- ・シーズン最多連勝記録(20連勝)
- ・ファイナルシリーズ最多得点記録(31・12・198 対カンガルーズ)
- ・開幕最多連勝記録(20-0)
- ・最多連続1位記録(29週)
- ・最多優勝記録(16=カールトン)

2001年エッセendonは、無敵とは行かないまでもレギュラーシーズンをトップで終えた。しかしその年のファイナルシリーズ、エッセendonはグランドファイナルでプリズベン・ライオンズに敗れている。その後のボマーズの成績は振るわず、2002年5位、2003年6位、2004年8位、さらに近年は苦しい戦いを強いられるシーズンが続いている。そして2007年には、27年間エッセendonのコーチを務め、グランドファイナル出場7回、プレミアシップ制覇4回という成績を残し、プレーヤー、コーチ合わせて879試合出場という記録を作ったケビン・シーディーがコーチを退任。後任にはマシュー・ナイツが就き、現在クラブの指揮を執る。

エッセendonのスーパースターには、3度ブラウンロウメダル獲得のディック・レイノルズ、世紀のフルフォワード ジョン・コールマン、ブラウンロウメダル、ノーム・スミスメダルを獲得したジェームス・ハード、3度コールマンメダルを獲得しているマシュー・ロイドらが挙げられる。



## *Fremantle the Dockers*

### フリマントル・ドッカーズ



フリマントルはウェストオーストラリアに本拠地を置くチームで、同じくウェストオーストラリアに本拠地を置くウェストコースト・イーグルスに続いて1995年にAFLへの参加を果たした。フリマントルの最初のコーチ ジェラルド・ニースハムは、クラブを正確なボール運びと相手へのブロックプレーを中心とする独特なランニングチームへと割り上げた。次のコーチ ダミアン・ドラムは2001年シーズン半ばでクラブを離れ、かつてフリマントルでプレーし、ケアテイカーコーチを務めていたベン・アラランが代わってコーチを務めた。2002年からはクリス・コノリーがフリマントルを率い、2008年からは新しくマーク・ハービーがクラブの指揮を執ることになる。1999年フリマントルは、MCGで行われたウェストコースト・イーグルスとのウェスタンダービーにおいてAFLでの初勝利を挙げる。しかしながら2001年には、ホームアンドアウェイシーズンにおいて2勝を挙げるにとどまった。2003年、ドッカーズは初のファイナルシリーズ進出を果たす。2004、2005年はファイナル進出を逃すが、2006年にはファイナルシリーズでの初勝利をあげ、その年をクラブ史上最高のシーズンとする。



## *Geelong the Cats*

### ジーロング・キャッツ



ジーロングはAFLで唯一、州都以外に本拠地をおくクラブである。このクラブは1859年に創設され、1897年にリーグへの参加を果たしたオーストラリアで2番目に歴史のあるクラブで、リーグの最多得点記録(37・17・239 1992年 対ブリスベン)を持っている。ジーロングは2007年の優勝を含めこれまで7度プレミアシップチャンピオンに輝いているが、2007年の優勝は1963年以来のもので、その間グランドファイナルに進出したのは1989、1992、1994、1995年の4回のみであった。その分ジーロングのファンは、その優勝を心待ちにしていた。ジーロングのゲリー・アブレットは、最も優れた才能を持つフットボーラーとしてかつてその名をとどろかせた。彼は1989年のグランドファイナルでずば抜けたジャンプ力とゴールキック能力を発揮し、9ゴールを決めてノーム・スミスズを獲得した。クラブは1960年代に、ラックナム グラハム・ボリー・ファーマーを獲得すると、彼の攻撃的なハンドボールを生かしたモダンフットボールへの転換を果たした。ファイナルへ進出した2000年シーズンの後、新コーチ マーク・トンプソンのもとキャッツは惜しくも2001年のファイナル進出を逃す。その年のラウンド21の試合後、ジーロングのファンはシェルススタジアム(現在のスキルドスタジアム)で、4度のクラブチャンピオンに輝いた名プレーヤー ゲーリー・ホッキングの引退を見送った。2004年、クラブはウィザードカップ(プレシーズンカップ)で2位に輝き、シーズンでもファイナル進出を果たす。2005年にも5位でファイナル進出を果たし、2006年にはNABカップ(プレシーズンカップ)での優勝を収めたが、キャッツはレギュラーシーズンでのファイナル進出を逃している。そして2007年、ついにジーロングはファンが待ち望んだ44年ぶりの優勝を果たした。



## *Hawthorn the Hawks*

### ホーソン・ホークス



ホーソンは1925年AFLに参加するが、それからの30

年間は下位の佳入としてリーグ生活を送ることになる。その後1961年に初のプレミアシップ制覇を果たすと、1971年には2度目のプレミアシップ制覇を果たす。そしてそれが、1970年代の伝説のコーチ ジョン・ケネディから始まるホークス黄金時代の幕開けとなる。スタープレイヤー レイ・マシューズ、ピーター・ナイツ、ピーター・ハードソン、マイケル・タック、デルモット・ブレトン、ジェイソン・ダンストール、ロバート・ディビエルドミニコ、クリス・ラングフォード、ゲリー・エアーズらを擁し、クラブは1976、1978、1983、1986、1988、1989、1991年のプレミアシップを獲得し、時代のチャンピオンクラブとなる。1999年にはシェーン・クロフォードがキャプテンを務め、彼はブラウンロウメダルを獲得する。2000年、新コーチ ピーター・シュワブがクラブをファイナル進出へ導くと、翌2001年にも同じくファイナル進出を果たす。そして現在のキャプテン リッチー・バンデン・バーグがシェーン・クロフォードの後を引き継ぎ、ルーク・ホッジ、サム・ミッチェル、ランス・フランクリンら若いプレイヤーを引っ張っている。クラブのホームグラウンドはMCG。2005年からはアリスティア・クラークソンがクラブを指揮し、2006年にクラブの本拠地をグレンフェリーからウェイ・リバーパークに移した。



## *North Melbourne the Kangaroos*

### ノースメルボルン・カンガルーズ



カンガルーズは1925年、ノースメルボルンフットボール

クラブとしてリーグに参加。1999年シーズンからカンガルーズへと名前を変え、その年は4位でシーズンを終える。1975年、カンガルーズはロン・バラシを擁し、積極的にスタープレイヤー獲得に動いた経営陣のもと初めてのチャンピオンフラッグを手にする。リーグ参加からそれまでの50年間で、クラブがグランドファイナルに進出したのは2度だけだった。その後クラブは1974～1978年の間に、5年連続でグランドファイナルへ進出し2度チャンピオンフラッグを手にする。

またカンガルーズは1990年代に最も輝いたクラブである。スタープレイヤーであったキャプテンのウェイン・ケリーに率いられ、1996、1998、1999年にグランドファイナル進出、1996、1999年にチャンピオンフラッグを獲得している。1998年のグランドファイナルでは、アデレードを相手にハーフタイムまで圧倒的に有利に試合を進めるものの、その後逆転され優勝を逃している。そして、デニス・バガンが1993年にコーチに就任して以来毎年ファイナル進出を続けてきたが、2001年にその記録は途切れてしまう。2003年からはディーン・レイドリーがクラブの指揮を執り、2007年にはシーズン4位、ファイナルシリーズ進出という成績を残している。

彼らは広いサポーター基盤を求め、シドニーとキャンベラでホームゲームを行ってきた。そして2007年にはゴールドコーストで3試合のホームゲームを行った。



## Melbourne-the Demons

### メルボルン・デーモンズ



デーモンズは1858年に創設されたオーストラリア最初のフットボールクラブである。1897年のリーグ設立当初から参加しているこのデーモンズには、長く誇り高い歴史がある。1877年に初めてプレミアシップを制覇して以来計12度プレミアシップを制覇。コーチ ノーム・スミスのもと、1955、1956、1957、1959、1960、1964年のプレミアシップを制覇し、クラブはAFLでの一時代を築いた。しかし、クラブが最後に獲ったプレミアシップはその時代の1964年のものであり、そこでクラブの黄金時代は終焉を迎えた。それ以降クラブがグランドファイナルに進出したのは1988年と2000年の2回のみであり、そのうち1988年のグランドファイナルではホーソンに記録の大差で破れている。1996年シーズン後、クラブはホーソンとの吸収合併の危機にさらされてしまう。しかし新しい首脳陣、プレジデント ジョセフ・ガトニックとコーチ ニール・ダナハーがクラブに新しい道筋を付け危機を回避。2000年には、ブラウンロウメダルを獲得したミッドフィールダーのキャプテン シェーン・ウォーウッドに率いられクラブはすばらしい活躍を見せたが、グランドファイナルでエッセンドンに敗れてしまう。その後2001年にジョセフ・ガトニックはそのポストを降りるが、クラブは2004、2005、2006年とファイナルシリーズ進出を果たす。しかし2007年の成績不振で、ニール・ダナハーがシーズン途中でコーチを退任。2008年からはディーン・ベイリーがクラブの指揮を執る。



## Port Adelaide-the Power

### ポートアデレード・パワー



ポートアデレードは1997年にAFLに参加。1999年に初めてファイナルシリーズへ進出し、2001年にはメルボルン以外のクラブとしては初めてアンセットカップを制覇。その年のレギュラーシーズンは4位という結果を残す。リーグへの参加は最も遅かったポートアデレードだが、サウスオーストラリアンフットボールリーグ(SANFL)ではポートアデレード・マグパイズとして、長く誇りある歴史を持っている。ポート・マグパイズはSANFLで34回のプレミアシップを制覇。コーチのマーク・ウィリアムズや、スターフワード ウォーレン・トレッドリー、その他にも多くのスピードあるミッドフィールダーを擁し圧倒的な強さを誇っていた。ポートアデレードは2004年に初めてAFLプレミアシップを制し、パイロン・ビケットがノーム・スミスメダルを獲得する。2007年にはグランドファイナルへ進出するが、グランドファイナルの記録となる大差でジーロングに敗れている。



## Richmond-the Tigers

### リッチモンド・タイガース



リッチモンドは1908年にリーグ参加。シティーの東側、労働者階級の人々が暮らしていた地域に本拠地をおき大きなサポーター基盤をつくり上げた。1930年代、ジャック・キャプテン ブラッド・ダイアが現れると、彼はそのリーダーシップとクラブへの厚い忠誠心で時代のシンボルとなった。リッチモンドの黄金時代は、コーチ トム・ヘイフィーのもと、1967、1969、1973、1974年と4度のプレミアシップ制覇を果たしたときであろう。その時代、クラブには名プレーヤー ケビン・パートレットやロイス・ハートらが在籍していた。リッチモンドは1980年までに10度のプレミアシップ制覇を果たしたが、それ以降は1982、1995、2001年にファイナルシリーズへ進出したのみである。2000年にコーチ ダニー・フロリーが就任しクラブの刷新を図るが、2004年のシーズンを最後に退任。テリー・ウォレスがその座を引き継いだ。



## St. Kilda-the Saints

### セントキルダ・セインツ



セントキルダは1897年VFL設立当初から参加してい

るクラブであるが、プレミアシップ制覇は1966年、グランドファイナルでコーリンウッドに1ポイント差の勝利を収めた年の1度だけである。しかしそんな栄光の少なさに反し、セインツは多くの熱心なサポーターに支えられている。クラブのスタープレーヤーには、ダレル・バラック、トニー・ロケット、イアン・ステュアート(ブラウンロウメダル3回)、ロバート・ハービー(ブラウンロウメダリスト)などが挙げられ、これまでにセインツは10人のブラウンロウメダリストを輩出している。

1997年、セインツは1971年以来となるグランドファイナル進出を果たすが、アデレードに敗れプレミアシップ制覇を逃している。2000年に最下位になってしまったのを機に、セインツはリクルートに力を入れ始める。コーチのティム・ワトソンに代えてマルコム・ブライトを就任させ、トップネームプレーヤー

アーロン・ハミル、フレイザー・ゲーリック、2001年No.1ドラフト ニック・リウォルト、2002年No.1ドラフト ブレンドン・ゴッダードらを獲得する。2004年にはウィザードカップ優勝、レギュラーシーズン3位。2004、2005年にもファイナル進出を果たしている。

SYDNEY SWANS



## Sydney-the Swans

### シドニー・スワズ



シドニーはAFLのバイオニアである。サウスメルボルン

フットボールクラブとして1897年にリーグに参加したこのクラブは、1982年にホームをハーバーシティ(現在のSCG)へと移した。ニューサウスウェールズへ移ってからの最初の数年間は成績が振るわなかったものの、1996年ロドニー・イードとコーチ契約をし、その年のグランドファイナルに進出すると、クラブはAFLでも屈指の強豪チームへと成長。それ以降2000年を除いて毎年ファイナルシリーズ進出を果たしている。

サウスメルボルンは1909、1918、1933年にプレミアシップを制覇し、その時代の偉大なフルフォワード ボブ・ブラットを輩出した。1950、60年代クラブは低迷するが、ブラウンロウメダルを3度獲得したボブ・スキルトンが、そのバック周辺での卓越したスキルでファンの期待を一身に集めた。本拠地をシドニーへと移した後、スタープレーヤー ジェラルド・ヒーリー、グレッグ・ウィリアムズ、コーチのトム・ヘイフィを擁し1986、1987年にファイナル進出を果たす。1990年代の後半、クラブはAFLのリーディングゴールキッカー トニー・ロケット(1999年シーズン中にリーグ通算ゴール記録1299ゴールを達成)、センターハーフバックの名プレーヤー ポール・ルーズ、1995年のブラウンロウメダリストで、偉大なキャプテンとなるポール・ケリーを獲得。2003年にはアダム・グズが、コーリンウッドのネイサン・バックリー、アデレードのマーク・リシュートと共にブラウンロウメダルを獲得。ポール・ルーズは現在スワズのコーチを務めている。2004年にはトップ8、2005年にはプレミアシップを制覇した。2006年はグランドファイナルに進出するも、ライバルのウェストコースト・イーグルスに破れている。





*West Coast the Eagles*

ウェストコースト・イーグルス



ウェストコースト・イーグルスは1987年にAFLに参入。コーチ ミック・モルトハウスのもと1992年にグランドファイナルでジーロングを破りプレミアシップを制覇し、ビクトリア州以外で初めてのプレミアシップチャンピオンとなる。1994年、彼らは同じくコーチ ミック・モルトハウスのもと、キャプテン ジョン・ワースフォールドを擁してまたもジーロングを破り、2度目のプレミアシップ制覇を果たした。イーグルスはフットボールのディフェンススキルを高め、チーム倫理を徹底した結果、1990年代の全てのファイナルシリーズへの出場を果たす。しかし2000年、新コーチ ケン・ジャッジのもとクラブは初めてファイナル出場を逃してしまう。その年キャプテン ガイ・マッケンナの引退を見送ると、2001年にはキャプテンのディーン・ケンプが怪我で引退に追い込まれる。もう一人のキャプテンであったベン・カズンズがプレーで奮闘するも、クラブは14位と不本意な結果に終わってしまう。しかしその後2003年にはファイナル出場。2004年にも、クラブ初のブラウンロウメダリストとなるクリス・ジャッドを獲得してファイナル進出を果たす。2005年にはグランドファイナルに進出するも、シドニー・スワンズに敗れてしまう。しかし2006年グランドファイナル、1点差で宿敵シドニー・スワンズに雪辱を晴らし、ウェストコーストはクラブ3度目のプレミアシップ制覇を果たした。



*Western Bulldogs*

ウェスタン・ブルドッグス



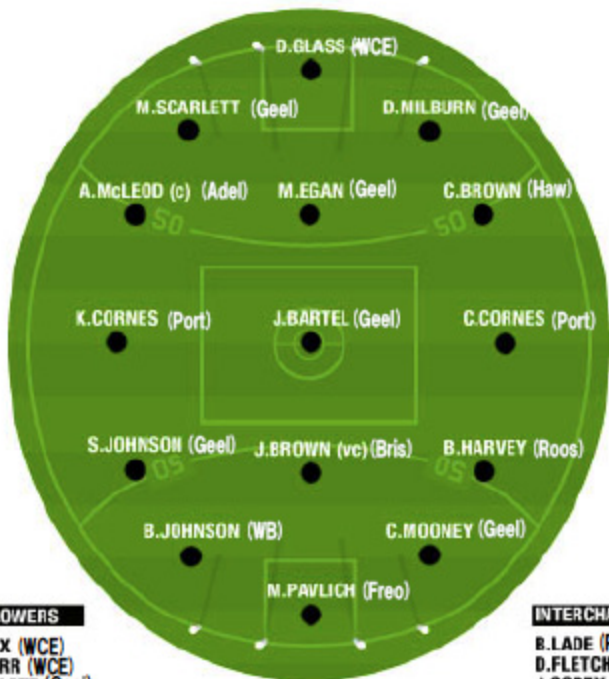
フットクレイ(現ブルドッグス)は1925年にAFL参入。

1954年に初のプレミアシップ制覇を果たすが、現在までブルドッグスのプレミアシップ制覇はその1度だけである。そのときのチームには「Mr.フットボール」とも呼ばれる伝説のフットボーラーの一人、E.J.ウィッテンが在籍していた。1989年、フィッツロイとの合併騒ぎが持ち上がりクラブは消滅の危機に立たされる。しかしクラブを守るためにファンが立ち上がり、クラブは消滅を免れた。1997年にフットクレイがウェスタン・ブルドッグスへと名前を変えると、コーチ テリー・ウォレスのもとクラブはすぐにファイナル進出を果たす。その年惜しくもグランドファイナル進出は逃すが、その後3年連続でファイナル進出を果たしクラブのレコードにその記録を残す。近年のクラブを代表するプレーヤーとしてはクリス・グラント、スコット・ウェスト、ブラッド・ジョンソン、アダム・クーニーらが挙げられる。



# All-Australian Team 2007

オールスターチーム2007



# Brownlow Medallists

## 1980-2007

ブラウンロウメダル  
(BEST & FAIREST MEDAL)



Year	Player	Club	Votes
1980	Kelvin Templeton	Foots	23
1981	Bernie Quinlan	Fitz	22
1981	Barry Round	S Melb	22
1982	Brian Wilson	Melb	23
1983	Ross Glendinning	N Melb	24
1984	Peter Moore	Melb	24
1985	Brad Hardie	Foots	22
1986	Robert DiPierdomenico	Haw	17
1986	Greg Williams	Syd	17
1987	Tony Lockett	St K	20
1987	John Platten	Haw	20
1988	Gerard Healy	Syd	20
1989	Paul Couch	Geel	22
1990	Tony Liberatore	Foots	18
1991	Jim Stynes	Melb	25
1992	Scott Wynd	Foots	20
1993	Gavin Wanganeen	Ess	18

Year	Player	Club	Votes
1994	Greg Williams	Carl	30
1995	Paul Kelly	Syd	21
1996	James Hird	Ess	21
1996	Michael Voss	Bris	21
1997	Robert Harvey	St K	26
1998	Robert Harvey	St K	32
1999	Shane Crawford	Haw	28
2000	Shane Woewodin	Melb	24
2001	Jason Akermanis	Bris	23
2002	Simon Black	Bris	25
2003	Mark Ricciuto	Adel	22
2003	Nathan Buckley	Coll	22
2003	Adam Goodes	Syd	22
2004	Chris Judd	WCE	30
2005	Ben Cousins	WCE	20
2006	Adam Goodes	Syd	22
2007	Jimmy Bartel	Geel	29

# The Coleman Medal



## 1980-2007

コールマンメダル

(LEADING GOALKICKER MEDAL)

Year	Player(Club)	Goals	Year	Player(Club)	Goals
1980	Michael Roach (Richmond)	107	1994	Gary Ablett (Geelong)	113
1981	Michael Roach (Richmond)	86	1995	Gary Ablett (Geelong)	118
1982	Malcolm Blight (N Melb)	94	1996	Tony Lockett (Sydney)	114
1983	Bernie Quinlan (Fitzroy)	106	1997	Tony Modra (Adelaide)	81
1984	Bernie Quinlan (Fitzroy)	102	1998	Tony Lockett (Sydney)	107
1985	Simon Beasley (Footscray)	93	1999	Scott Cummings(WCE)	88
1986	Brian Taylor (Collingwood)	100	2000	Matthew J. Lloyd (Ess)	94
1987	Tony Lockett (St Kilda)	117	2001	Matthew J. Lloyd (Ess)	96
1988	Jason Dunstall (Hawthorn)	124	2002	David Neitz (Melbourne)	75
1989	Jason Dunstall (Hawthorn)	128	2003	Matthew Lloyd (Essendon)	89
1990	John Longmire (N Melb)	98	2004	Fraser Gehrig (St. Kilda)	103
1991	Tony Lockett (St Kilda)	118	2005	Fraser Gehrig (St. Kilda)	74
1992	Jason Dunstall (Hawthorn)	139	2006	Brendan Fevola (Carlton)	84
1993	Gary Ablett (Geelong)	124	2007	Jonathan Brown (Bris)	77

# The Norm Smith Medal

ノーム・スミスメダル

(BEST ON GROUND IN THE GRAND FINAL)

YEAR	PLAYER (Club)	YEAR	PLAYER (Club)
1979	Wayne Harnes (Carlton)	1993	Michael Long (Essendon)
1980	Kevin Bartlett (Richmond)	1994	Dean Kemp (WCE)
1981	Bruce Doull (Carlton)	1995	Greg Williams (Carlton)
1982	Maurice Rioli (Richmond)	1996	Glenn Archer (Kangaroos)
1983	Colin Robertson (Hawthorn)	1997	Andrew McLeod (Adelaide)
1984	Billy Duckworth (Essendon)	1998	Andrew McLeod (Adelaide)
1985	Simon Madden (Essendon)	1999	Shannon Grant (Kangaroos)
1986	Gary Ayres (Hawthorn)	2000	James Hird (Essendon)
1987	David Rhys-Jones (Carlton)	2001	Shaun Hart (Brisbane)
1988	Gary Ayres (Hawthorn)	2002	Nathan Buckley (Collingwood)
1989	Gary Ablett (Geelong)	2003	Simon Black (Brisbane)
1990	Tony Shaw (Collingwood)	2004	Byron Pickett (Port Adelaide)
1991	Paul Dear (Hawthorn)	2005	Chris Judd (WCE)
1992	Peter Matera (WCE)	2006	Andrew Embley (WCE)
		2007	Steve Johnson (Geelong)

# AFL Premiership Champions

AFL プレミアシップチャンピオン



Year	Club	優勝回数
1990	Melbourne Demons	12
1991	Hawthorn Hawks	9
1992	West Coast Eagles	初
1993	Essendon Bombers	15
1994	West Coast Eagles	2
1995	Carlton Blues	16
1996	North Melbourne Kangaroos	3
1997	Adelaide Crows	初
1998	Adelaide Crows	2
1999	North Melbourne Kangaroos	4
2000	Essendon Bombers	16
2001	Brisbane Lions	初
2002	Brisbane Lions	2
2003	Brisbane Lions	3
2004	Port Adelaide Power	初
2005	Sydney Swans	4
2006	West Coast Eagles	3
2007	Geelong Cats	7

